

# 国語

## ▼2025年度入試・大問別出題分野

入試区分	出典	本文	設問
特別奨学生入試	品川哲彦 『倫理学入門』	道徳と倫理は同じ意味で使われることもあるが、使い分けられることがある。使い分けられる場合、道徳は共に生きていくために守るべき行為規範の体系として、倫理は本人の生き方の選択に関わるものとして区別することができる。 約3000字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(2) 理由説明(1) 意味問題(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	久野愛 「感じる歴史」 (『世界思想』50号 2023年4月10日発行より)	政治的・経済的・社会的状況の中で作り出される感覚体験は、その時代・場所特有の意味を持つ。したがって感覚の歴史は、過去の人々がどのように生き、感じ、考えていたのかを理解するためのヒントを与えてくれる。 約3300字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(2) 理由説明(1) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	知識問題		漢字の読み取り(2) 文法問題(3) 慣用句問題(10) 解答数15問(標準)
一般入試 前期	妹尾武治 『おどろきの心理学 人生を成功に導く「無意識を整える」技術』	リベットの実験から分かったのは、人間の行動は脳が外界の情報を集めて形成したものであり、そこから0.3秒後に意思が遅れて形成されるため、意思が行動を決めているのではないということである。つまり、自由意思など存在しないのだ。 約2200字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(1) 理由説明(2) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	樋口陽一 『リベラル・デモクラシーの現在――「ネオリベラル」と「イリベラル」のはざまで』	リベラルとデモクラシーは、論理上はあくまで別次元の話であるが、この両者は両立する時もあれば対立する時もある。そして、両立する時をリベラル・デモクラシーと呼ぶが、この両者の対立の一番典型的な例として挙げられるのがカール・シュミットである。 約3300字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(2) 理由説明(1) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	知識問題		漢字の読み取り(2) 文法問題(3) 慣用句問題(10) 解答数15問(標準)
一般入試 後期	樋口陽一 『個人と国家』	人権と人道の区別には注意が必要だ。つまり、闘う力を持たない弱者を放つておけないのが人道であるが、人権はそれとは異なり、自分の意志で闘うことを前提にしたものなのである。 約2500字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(4) 内容説明(1) 理由説明(2) 脱文挿入(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	岡田暁生 『西洋音楽史』	単旋律であるグレゴリオ聖歌は、西洋芸術音楽の最大の特徴である「楽譜として設計された音楽」ではないが、西洋音楽の前史を語る際の軸として挙げができる。 約3000字(標準)	漢字の書き取り(2) 空所補充(3) 内容説明(2) 理由説明(1) 脱文挿入(1) 意味問題(1) 本文内容合致(1) 解答数11問(標準)
	知識問題		漢字の読み取り(2) 文法問題(3) 慣用句問題(10) 解答数15問(標準)

# 国語

## ▼傾向

《出題形式》 大問 I・II・IIIで構成されている。すべて現代文であり、古文、漢文からの出題はない。大問 I・II では読解問題からの出題が基本であるが、一部、意味などを問う知識問題も出題されている。それに対し、大問IIIでは漢字の読み取りや文法（品詞）、四字熟語・慣用句などといった知識問題のみからの出題となっている。マーク式が基本である。今年度の解答数は、特別奨学生入試・一般入試前期・一般入試後期、いずれも全 37 問（I 11 問・II 11 問・III 15 問）であった。

《出題内容》 特別奨学生入試 I 品川哲彦『倫理学入門』

約 3000 字（標準）

II 久野愛「感じる歴史」（『世界思想』50号 2023年4月10日発行より）  
約 3300 字（標準）

III 知識問題

一般入試前期 I 妹尾武治『おどろきの心理学 人生を成功に導く「無意識を整える」技術』

約 2200 字（標準）

II 樋口陽一『リベラル・デモクラシーの現在—「ネオリベラル」と「イリベラル」のはざまで』

約 3300 字（標準）

III 知識問題

一般入試後期 I 樋口陽一『個人と国家』

約 2500 字（標準）

II 岡田暁生『西洋音楽史』

約 3000 字（標準）

III 知識問題

今年度は、いずれの日程もマーク問題のみで構成されていた。また、大問IIIは例年と同じで、漢字の読み取りや品詞、慣用句などの知識問題が並んでいた。ただし、読解問題である大問 I・IIにおいても、漢字の書き取りや語句の意味、文法的説明や文学史などといった、知識を必要とする問題が含まれることもある。年度によって多少の変動はあるが、総合的な学習が必要であることに変わりはない。

《難易度》

読解問題、知識問題とも基本から標準レベルである。本文内容の正確な読み取りができ、知識力があれば高得点が期待できる。

## ▼対策

年度によって多少傾向が変わるのは当然だが、かといって、文章を読んで傍線部や設問が想定している箇所を正確に理解するという行為に慣れていないと、国語で高得点を取ることができないということには変わりがない。その際、知らないテーマで書かれた文章だと読みにくさを感じるだろうから、なるべく多くの文章を読み、普段は考えないテーマについて意識的に触れるようにしておきたい。ただし、近年の受験生は漢字や意味などを問う知識問題で失点しやすい傾向にある。つまり、こうした知識問題での失点を防ぐことも重要である。したがって、必ず漢字や四字熟語・慣用句などの知識問題が載っているドリルや問題集等を解き、語彙力を増やしていってほしい。その際、知らない表現を調べておくとさらに効果的である。

## ▼重要ポイント

大学に入ってからも、また、社会に出てからも必要とされる基本的な語彙力と読解力が試されている。特に現代文では、普段は考えない事柄が題材になるだけでなく、日常では使わない言葉が用いられることがある。したがって、知らない考え方や言葉であるからといって拒絶しながら読むのではなく、他者の主張を柔軟に理解しようとする姿勢が必要である。そのためにも、普段から文章を読んで、多様な考え方を知っておくことが必要である。